



川口市立在家中中学校 川口市大字安行領在家272番地
048(295)4102 FAX 048(295)5661
URL <https://zaike-j-kawaguchi-saitama.edumap.jp/>



・心身ともにたくましい生徒
・自ら進んで学ぶ生徒
・豊かな情操を培う生徒

校長面談より

校長 鈴木 玲

トントントン。「失礼します」……。校長室のドアが開き、緊張した面持ちの3年生が顔を覗かせます。礼儀正しくお辞儀をし、意を決したように校長室へ入ってきます。

10月23日から今年度の校長面談が始まりました。毎年3年生を対象に行われるこの面談は高校受験の際の面接試験の練習を兼ねているため、どの生徒の顔からもいつもの柔和で親し気な表情は消え、いすに座る姿も少々ぎこちない感じです。しかし、こちらからの質問に対し、一生懸命、丁寧に自分の思いを伝えようとしてくれます。「中学校卒業後の進路について、今考えていることを教えてください」。まず初めに私が必ず尋ねる質問です。この質問には大きく分けて2パターンの答えが返ってきます。1つは『自分の将来の夢』を語ってくれるパターンです。「今、〇〇に興味があり、将来はそれに関係する職業に就きたいと考えています」「得意な〇〇を活かせる仕事がしたいです」「大学に進学し、〇〇について勉強してみたいと思っています」など。自分の将来を展望し、目指す通過点を設定する。そこに達するまでに何をしなければいけないのか、明確に見えている生徒とそうでない生徒がいることは否めませんが、今の自分から少し遠いところに視点を向けていることはとても大事なことだと思います。そしてまた、彼らの将来がとても楽しみです。

一方、もう1つの答えとして多いのは『高校などの具体的進学先』です。前述の〈今の自分から少し遠いところに視点を向けている〉のとは対照的に、今の自分の足もとを見つめ、現在地から進み方を探るといえる考え方です。3年生の今、最も大きな課題は受験ですから、真っ先にこの答えが返ってくるのは当然のことですし、『将来のために、まずはどの高校を選ぶか?』を考えることもまた大事なことです。しかし、時々、その進路希望に少しだけ残念に思うことがあります。生徒たちが語る『志望理由』に対してです。「今の成績だと…」「偏差値が…」といった答え。現実としてこのような数値は受験校を考える上での判断材料になります。しかし、どんな高校かも知らず、入学後に何をしたいのかも考えないまま、数字だけで自分の将来を選ぶのは少し違う気がします。さらに時には「親に勧められて…」「塾の先生が…」という答えが返ってくることもあります。

中学3年生の進路選択は、一生のうちで最初に訪れる大切な分岐点です。

今の自分に自信がもてない3年生、これから進路を考える1・2年生に、国語の教科書にも載っている新川和江さんの『わたしを束ねないで』という詩の一節を紹介します。国語の解釈とは異なるかもしれませんが、進路をキーワードに、どのような意味なのか、ぜひ考えてみてください。

わたしを区切らないで

コンマ ビリオド

、 や ・ いくつかの段落

そしておしまい「さようなら」があったりする手紙のように

こまめにけりをつけないでください わたしは終りのない文章

川と同じに

はてしなく流れていく 広がっていく 一行の詩

新川和江『わたしを束ねないで』第五連より

私は、「わたしを区切」っているのは案外、自分自身ではないかと思う時があります。